



公益財団法人CIESF(シーセフ)は、非営利で国際的な民間の支援団体です。基礎教育の質の向上を主な目的とし、その上で高度人材育成も行い、カンボジアをはじめとした途上国の発展を支援します。

【教育に関する格言23】

発行：公益財団法人CIESF 日本事務局  
〒150-0002  
東京都渋谷区渋谷2-7-5 URD渋谷第2ビル4F  
Tel:03-6418-2480 Mail:info@ciesf.org

お世話になっております。CIESF(シーセフ)をご支援くださる皆さま、いつもありがとうございます。そしてこのニュースレターを手にしてくださった方々、出会いに感謝します。梅雨真っただ中ですが、気持ち晴れやかに参りましょう、7月！  
**CIESFはカンボジアだけではありません**

2008年12月(任意団体として7月)に設立された一般財団法人カンボジア国際教育支援基金は、2010年5月に公益認定を受け、公益財団法人CIESFとなりました。その名の通り、まずはカンボジアの教育支援を目的としてスタートいたしました。

それから6期を迎え、CIESFの支援活動は、ミャンマーの起業家支援、ベトナムの産業人材育成支援と拡大してまいりました。もちろんカンボジア国内において、新たな支援も行ってきました。「CIESF」といえば、カンボジアとお思いになる方がほとんどですが、今後、ニーズがあれば、メコン流域の他の新興国の教育支援・人材育成支援も行うかもしれません。

そこで、ロゴマークを一部修正いたしました。支援活動は、ミャンマーの起業家支援、ベトナムの産業人材育成支援と拡大してまいりました。もちろん、カンボジア国内において、新たな支援も行ってきました。「CIESF」といえば、カンボジアとお思いになる方がほとんどですが、今後、ニーズがあれば、メコン流域の他の新興国の教育支援・人材育成支援も行うかもしれません。

## 株式会社リックブレイス



アントレプレナーフェスティバルの会場にて、カンボジアの若者へ話をする石塚信司社長(フンベン)

成績向上や受験合格だけではなく、生きる喜びを伝える塾にしたい

石塚社長が、株式会社リックブレイスを立ち上げたのは、2005年。それまでは外食産業の会社に勤めていました。外食産業からなぜ教育事業？この点は多くの方から質問されるそうです。「いまの子どものちに生きる力が足りない、そう思いました。子どもたちを取り巻く環境はけっしていいとは言えません。いじめや学級崩壊、ひきこもりやニートなど、さまざまなお悩みや問題化しています。詰め込み教育や点数化による振り分けで、子どもたちの生きる指針はまるで学校の点数だけしかないように思われています(石塚)。いっぽうでは、努力していい成績を取っていても、大学に入った途端あるいは社会に出た途端に生きる目標を見失って対応できない社会人も

お世話になっております。CIESF(シーセフ)をご支援くださる皆さま、いつもありがとうございます。そしてこのニュースレターを手にしてくださった方々、出会いに感謝します。梅雨真っただ中ですが、気持ち晴れやかに参りましょう、7月！  
**CIESFはカンボジアだけではありません**

2008年12月(任意団体として7月)に設立された一般財団法人カンボジア国際教育支援基金は、2010年5月に公益認定を受け、公益財団法人CIESFとなりました。その名の通り、まずはカンボジアの教育支援を目的としてスタートいたしました。

それから6期を迎え、CIESFの支援活動は、ミャンマーの起業家支援、ベトナムの産業人材育成支援と拡大してまいりました。もちろんカンボジア国内において、新たな支援も行ってきました。「CIESF」といえば、カンボジアとお思いになる方がほとんどですが、今後、ニーズがあれば、メコン流域の他の新興国の教育支援・人材育成支援も行うかもしれません。

そこで、ロゴマークを一部修正いたしました。支援活動は、ミャンマーの起業家支援、ベトナムの産業人材育成支援と拡大してまいりました。もちろん、カンボジア国内において、新たな支援も行ってきました。「CIESF」といえば、カンボジアとお思いになる方がほとんどですが、今後、ニーズがあれば、メコン流域の他の新興国の教育支援・人材育成支援も行うかもしれません。

増えています。そこを何とかしなければ、日本はお先真っ暗、夢も希望もない国になってしまう、石塚社長はそう考えました。

「7つの習慣」は原則があった(キングラー出版 1996年)は原著の初版と合わせて全世界で2000万部を超える大ベストセラーです。本のほか、セミナーやCDで多くのビジネスパーソンがこの極意を学んでいます。7つの習慣を日本の小学・中学・高校生向けにアレンジしたプログラム「7つの習慣J」というものがあります。I.T.T.O個別指導学院は教育プログラムとしてこれを導入している塾です。サラリーマン時代「7つの習慣」をむさぼり読んで感銘を受けた石塚社長は、「これだ！」と飛びついたそうです。この塾ならば、成績向上や受験合格だけでなく、子どもたちの生きる力を養うお手伝いのできるのではないかと。

## 塾の弱点と大人の影響力



お世話になっております。CIESF(シーセフ)をご支援くださる皆さま、いつもありがとうございます。そしてこのニュースレターを手にしてくださった方々、出会いに感謝します。梅雨真っただ中ですが、気持ち晴れやかに参りましょう、7月！  
**CIESFはカンボジアだけではありません**

2008年12月(任意団体として7月)に設立された一般財団法人カンボジア国際教育支援基金は、2010年5月に公益認定を受け、公益財団法人CIESFとなりました。その名の通り、まずはカンボジアの教育支援を目的としてスタートいたしました。

それから6期を迎え、CIESFの支援活動は、ミャンマーの起業家支援、ベトナムの産業人材育成支援と拡大してまいりました。もちろんカンボジア国内において、新たな支援も行ってきました。「CIESF」といえば、カンボジアとお思いになる方がほとんどですが、今後、ニーズがあれば、メコン流域の他の新興国の教育支援・人材育成支援も行うかもしれません。

そこで、ロゴマークを一部修正いたしました。支援活動は、ミャンマーの起業家支援、ベトナムの産業人材育成支援と拡大してまいりました。もちろん、カンボジア国内において、新たな支援も行ってきました。「CIESF」といえば、カンボジアとお思いになる方がほとんどですが、今後、ニーズがあれば、メコン流域の他の新興国の教育支援・人材育成支援も行うかもしれません。

塾である限りは、成績向上と受験の結果はついて回ります。しかし、ここだけを目的としてしまうと、子どもに考えさせることがなくひたすら詰め込みになってしまう。受験に向かって頑張った子が、入学後に目標を見失って生きる力が希薄になってしまうこともあるそうです。「なぜ、これから先ずつと続いているのか、これからはどうしようか」という問いかけは、人生そのものに立ち向かうことを教えられるのか？ それこそ、受験を目的化してしまわざるをえない塾の最大の弱点なのです。つまり受験が終わった後、このことは知らないよ、ということ(石塚)。

では、受験もクリアしつつ、人生そのものへの立ち向かい方を身に着けるにはどうしたらよいのでしょうか。石塚社長は、人の人生に触れることが重要と言います。つまり、家族や教師といった大人の人間力を子どもに示すことです。たとえば、子どもに「勉強しなさい」と言っても、子どもがなぜ勉強しなければならないのか納得できなければ成績は伸びにくいです。「こうなりたい」とそんな憧れの対象がいたとして、そのためには勉強しなさいといけなんんだなと思えば、子どもは自ら考え勉強をするでしょう。その憧れの対象は、親や教師ではなくてもいいのです。伝記を読ませる、なるべく多くの人生に触れることで子ども自らが見つけていく環境を裕とあげることが大切で、その余裕を与えず、口を開けて「勉強しなさい」では、石塚社長の言葉を借りれば、大人が子どものドリムキラーになってしまうという事です。

## 特集 教育関連企業と社会貢献

カンボジアをはじめとした途上国の教育支援を行っている私たち公益財団法人CIESFは、日本の教育について少し調べて、考えてみることにしました。というのも、現在カンボジアにおいては、学校という建物(ハードウェア)ではなく、教育の中心(ソフトウェア)の支援を行っています。具体的には、教師の質の向上を目指しベテラン教師を現地の教員養成校に派遣する「国境なき教師団」事業、そしてカンボジア教育省の若手官僚から国の教育政策を担う人材を育成する教育政策大学院大学の運営事業です。支援を行う際、もちろん日本の教育に基づいて、カンボジアに適した形でアドバイスを行うのですが、基本となる日本の教育について、きちんと知っておかなければならないと思いました。現在、日本の教育も様々な課題を抱えています。その課題解決の課程や方法は、将来、途上国の教育支援に必ず活かせると思定しています。

まずは、教育関連事業を行っている企業の方にインタビューを行い、学校とは違う角度で日本の教育における課題を伺ってみます。また、ご紹介する先は、教育関連企業の中でも社会貢献に力を入れている点に注目し、取材のお願いをした企業です。

社団法人チャレンジ教育協会が主催する、小学生・大学・専門学校生を対象とした「自分で決めた目標に挑戦する」大会です。塾に通う生徒にこの大会に出場することによって、目標をもつて半年間それにチャレンジし成長することを促しています。いくつか内容を紹介していただきます。

「パティシエになるという自分の夢を実現するために、30種類以上のお菓子のレシピ作り」にチャレンジ。地域の人たちに感謝されるような高校生になりたい」という想いから、学校近くの公園の清掃活動を行った高校1年生男子5人組。日本の視点からではなく他国からの視点も盛り込んで太平洋戦争について調べ、レポートすることにチャレンジなど。